

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

mingle

みんなぐる

Vol.41
2013
7月号

Top News

新校舎紹介

特集

各国の夏休み₂

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化VOICE 4

イチオシ! & ボランティアの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

最近の活動報告 8

|新規掲載|

いいね! フリースクールのできごと 9



認定NPO法人

多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

ホームページリニューアルしました!

<http://tabunka.or.jp/>

[facebook.com/tabunkatokyo](https://www.facebook.com/tabunkatokyo)

[@tabunka_tokyo](https://twitter.com/tabunka_tokyo)

私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

：たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

：教育相談

：多言語による高校進学ガイダンス

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

- ：外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査
- ：研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- ：メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんくる」の発行

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

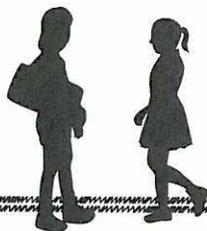
：子どもプロジェクト(学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

：親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート

新校舎紹介



多文化共生センター東京は、4月1日から荒川区西尾久3丁目の旧小台橋小学校3階に移転しました。新しい活動の場所について「どんな場所ですか?」「生徒たちは、今まで通り、頑張って勉強していますか?」など、多くの方から声をかけていただいています。

新校舎についてご紹介します。新校舎は、荒川区立小台橋保育園、社会福祉法人かがやき「小台橋あさがお」、東京都教職員組合荒川支部の3団体が入っています。各団体の皆さまにお話しをお聞きしました。

3階 多文化共生センター東京

校舎裏の非常階段が入口です!



非常階段

3階 都教職員組合荒川支部

荒川の子どもたちがすこやかに成長する為に、また、そこで働く教職員が健康で生き生きと働き続ける事ができるようにとの願いで幼小中の先生方で組織され活動している団体です。

校門



1階

荒川区立小台橋保育園

毎日、朝早くからかわいい子どもたちの声が響いています。園庭でバーベキューや大根汁に大喜ぶ子どもたちの姿が見られました。0歳から6歳まで約160名の園児の皆さんが通園しています。

1階 小台橋あさがお

荒川区内の障害を持つ方々が仕事をされています。就労移行・就労継続支援をしています。パン作りや鉛筆関連・ショッピングバッグなどの仕事です。多文化では、毎週金曜日にできたての美味しいパンを届けていただいています。人気のパンはごまコッペ・オレンジレアチーズです。西日暮里舎人ライナー駅改札前に新店舗「グローリー」ができました。

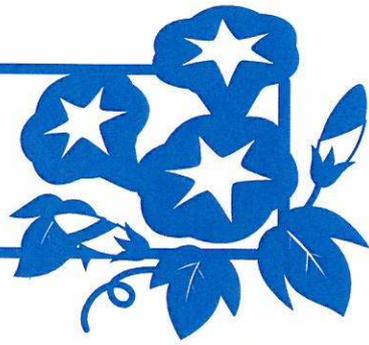


校舎裏にプランターを置き、野菜を育てています。
トマト、ナス、キュウリ、バジル…。収穫を楽しみにしています。



多文化入口は校舎裏の非常階段です。わかりにくく驚き!の声もありますが、教室はきれいで明るく、生徒たちは皆、遅刻する事もなく頑張って勉強しています。

各国の夏休み



もうすぐ夏休み！日本の夏休みのイメージといえば、ラジオ体操にプールに花火、そしてたくさんの宿題！じゃあ他の国の夏休みはどんな感じなんだろう…と、フリースクールにいる子どもたちに聞いてみました。



1 中国

中国の夏休みは、7月から9月までの2か月間で、学校からの宿題がたくさん出るためあまり遊ぶことができないそうです。また、インタビューに答えてくれた何人かの生徒は、夏休みはさみしい、つまらないと言っていました。それには、宿題の多さも関係しているようです。

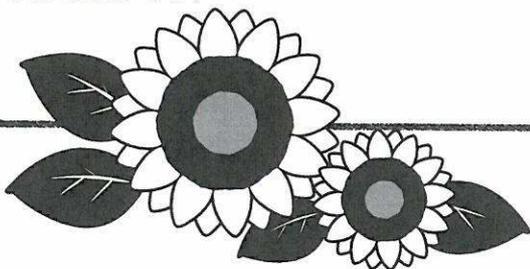
また、家族で出かけるときには、山や川などの涼しい場所に行くと言っていました。夏はとにかく暑いので、家で宿題をして過ごすのが中国の夏休みの過ごし方ようです。

2 韓国

韓国の夏休みは7月から8月までの1か月間。暑いときには冷麺を食べますが、冷麺は暑いときだけでなく寒い冬でも食べるそうです。

夏休み中に出る宿題は少なく、暇になった時間は友達とパソコンカフェに行き、ゲームをするそうです。外は暑いので、パソコンカフェには人がたくさん来ていると聞きました。また、外で遊ぶときには海や川に行ったりして涼むそうです。

韓国では夏休みの期間に花火大会はありませんが、夏と秋に花火が上げられます。花火が暑い期間に上げられるのは日本と同じです。



③ ネパール

7月には2週間しかお休みがありませんが、秋のネパール最大のお祭りダサインとティハールが続くシーズンに1ヶ月ほど休みになるそうです。お祭りの日程は太陰暦によって決まるために毎年違った日になるうえに、いつからいつまでが休みなのかも学校によって違うとのこと。休み中は離れて暮らしている人も地元に戻ってきて、親族が集まって楽しく過ごすそうです。お祭りの期間中に家長から若い親族に果物や少額のお金が与えられることもあるとのこと。日本の「お年玉」みたいですね。

④ フィリピン

フィリピンの夏休みは4月から5月の1か月間です。この期間はとても暑いため、ハロハロを食べると言っていました。ハロハロとは、アイスクリームと牛乳とフルーツが入ったデザートのようなものです。また、メロンジュースを買って飲んだりするようです。日本同様、夏にはお祭りが行われるようです。

1か月の夏休みですが、宿題も少ないそうなので自由に過ごせる楽しい夏休みになるそうです。家族旅行にはあまり行かないようですが、出かけるときには近場ではなく、遠いところに遊びに行くそうです。

⑤ ミャンマー

1年中暑いミャンマーの夏休みは3月から6月までの3か月間。学校での1学年が2月に終わるので、6月の進級までの3か月間が休みになります。また、その3か月間は進級前の期間になる為、宿題もありません。

夏休みには、いちごと牛乳を混ぜたシェイクを飲んだり、マンゴーを食べたりするそうです。マンゴーは、切ってから中の果汁を飲み、その後マンゴーの実を食べるそうです。

旅行は、お金持ちしか行かないと聞きました。ですが、家族でお寺に行くことがあるようです。ミャンマーには仏教が伝わっているので、お寺に行き家族でお祈りをし、帰り道は裸足で帰ってくるという行事が行われるそうです。

⑥ オーストラリア

日本とは季節が真逆なオーストラリア。そんなオーストラリアの夏休み期間は大体12月中旬から1月中旬の1か月ちょっとです。夏休みの間にちょうど新年を迎えるので、その時に花火が打ち上げられます。ちなみに日本のように花火大会などはなく、花火が打ち上げられるのは新年を迎えたときくらいだそうです。

夏休みの宿題がなかったり、特に旅行にも行ったりしないというのがオーストラリアの夏休みの特徴です。なので、よく友達とクリケットなどのスポーツをして遊んだり、海で泳いだり、家族でBBQをしたりというのがオーストラリアの夏休みの過ごし方です。

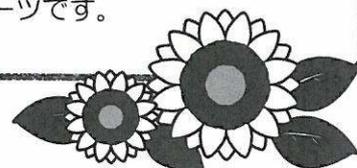


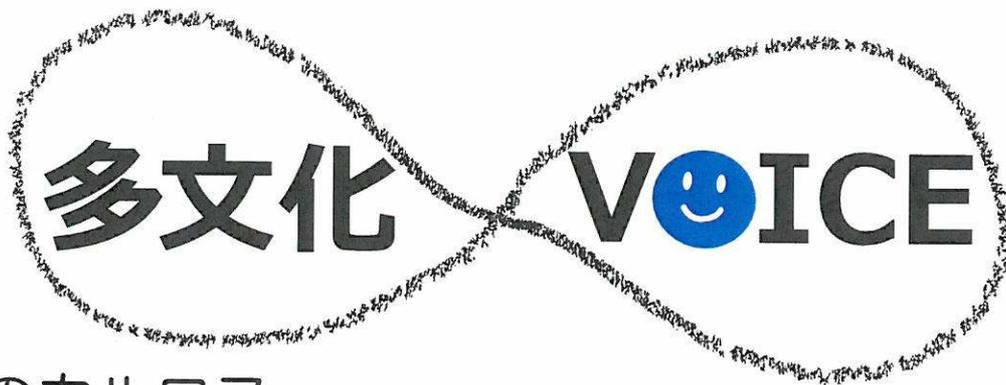
⑦ コンゴ共和国

コンゴでは中学校が6年生まであります。そのためか夏休みの長さも学年によって違うというのがコンゴの夏休みの特徴です。小学生と中学5年生までが6月の下旬から9月の始まりの2か月ちょっと、中学6年生と高校生は7月から9月の2か月間という期間が一般的みたいです。学年によって長さが違うのはテストや試験などがあるからという理由のようです。

夏休みの宿題はなく、たまにどんなことがあったか日記を書くくらいだそうです。近所に先生も住んでいるので、勉強などで分からないことがあったら学校ではなくて直接先生の所へ行って聞くのが普通のことのようです。

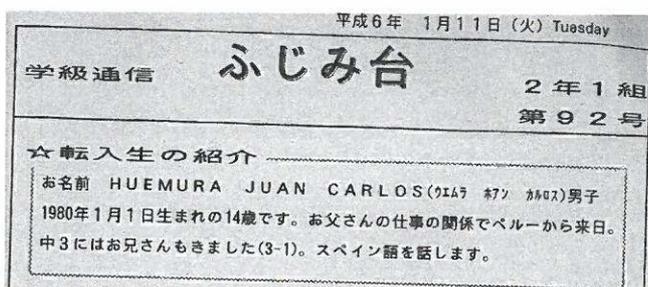
日本のように夏休み期間に旅行に行くということはなく、ほとんどを家で過ごすみたいです。また、友達や近所の人とよく遊ぶらしく、コンゴだとサッカーやバレーボールが定番のスポーツです。





中2のカルロス 上村カルロスさん

私カルロスが日本に来たのは中2の時でした、13歳でした。当時のあだ名は、外人ではなく「ジンガイ」でした。英語風に言えば jin-guy? 現代の日本社会では外人という言葉は差別用語であると言われておりますが、私にとって外国人=外人でも意味が同じなのでどちらでも良いと思ってました。そして、見た目も話し方も外人の私にとって「ジンガイ」というあだ名はお気に入りでした。思えば、南米のペルーで生まれて、13歳までペルーで育った私には外人という憧れがあったかもしれません。私はペルーに住んでいた子供の頃に何人かの外国人と会うことができました。ペルー来る外国人はヨーロッパやアメリカから多く、アジアの外国人もペルーに来ました。その人たちは祖国を出て別世界であるペルーへ来て、スペイン語を覚えたり、新しいことに挑戦するその姿がたくましく、子供の私にはそれが恰好良く見えてました。だから、私はペルーから日本に来ることになった時は自分も外国人=foreigner 気分を味わえると思ってワクワク楽しみにして日本に来ました。



これは20年前当時、中2での紹介文です。私の名前だけがカタカナという優越感、クラスの皆が私のことに興味を持って、優しく英語で話しかけられて、楽しい日々が続いた…のは1ヶ月だけでした(笑)。

その後、クラスの皆の興味が薄れて、日本語で話せない私と会話しなくなったのです。まあ、その気持ちも分かりませぬ。なぜなら言葉がわからないと面倒ですね。私も面倒だし、皆も面倒だったというのが理解できます。できれば、私も、スペイン語を話せる友達を作りたかったけれど、20年前に中2の外国人は私だけでした。その状況で、日本語を覚えるしかないと確信しました。日本語ができない悔しさをバネにして日々、日本語を勉強し、漢字練習をずっと真夜中まで続けました。その成果もあって中学校を卒業するまでに日本語を話せるようになって、2人の友達をつくることができました！そして高校に入ってから更に友達が増えて、今では数えきれないほど友達がたくさんいます。33歳の大人になった今ではスペイン語と日本語を使って仕事してます。そして、日本語を覚えたことがどの勉強よりも人生で一番役立っているものになってます。

日本語を覚えることで、自分に自信を持つことができました、高校を卒業して工場でアルバイトしました。しかし、もっと日本語を使いたいという思いでホテルに勤務することにしましたので、ここで敬語などの接客用語を覚えることができました。その頃、21歳、私が日本とペルーの架け橋になりたいという思いが浮かんできましたので、先ず“日本の皆様にペルーのことを知って欲しい！”という思いで、旅行会社に入社することにしました。現代、入社12年目ですが、毎日ペルーや外国の紹介をするのは私の天職だと確信しています！

イチオシ



『移民の宴 ～日本に移り住んだ外国人の

不思議な食生活～』

たかの ひでゆき
高野秀行 著
講談社 2012年
1,680円



世界各地を旅した経験や海外在住経験が豊富で、とりわけアジアやアフリカの文化に造詣が深い著者が、日本に長く暮らす外国人（本書では「移民」と呼ぶ）の食生活を、個人のストーリーと地域社会とを合わせて描写した作品。300ページを超え、全12章、タイ、イラン、台湾、インドなど、多様な国や地域からの移民の食がギュッと詰まった1冊だが、小説も手がける著書の軽妙なタッチのおかげで、賑やかな話し声や笑い声、そして料理の香りまで漂ってきそうで、一気に読み進められる。

近頃、日本に住む外国人が増加し、とくに東京などの大都市では世界各国の料理を味わうことができるようになったが、本書で取り上げる外国人たちの「普通の食」に出会うことは難しい。著者が冒頭で「(取材時に)訪問した建物の扉を開けた瞬間に、別世界に連れていかれたことも一度や二度ではない。ドラえものの「どこでもドア」のように、一瞬で外国に行ってしまうのだ。」と驚き混じりに書いているが、ページを紐解けば同じ思いに胸踊り、自然とページを追ってしまう。

翻って思えば、日本に暮らしていても「おふくろの味」を恋しく思うことはあるし、旅行先で無性に味噌汁を飲みたくなることもよくあること。食とは、単に腹を満たすだけのものではない。祖父母、両親から受け継がれた味、そこに込められる愛情に心を温め、踊り、歌いながら肩を寄せ合って楽しむひととき、異郷の日本でいかほどにふくよかな安堵を感じるのだろうか。

多文化共生センター東京でも、各地からやってきた子どもたちは各人各様の弁当を持参し、昼休みの教室は食欲をさそう匂いと賑やかな笑い声に満ちている。弁当は勉強や遊びに頑張るエネルギーをチャージするだけではなく、故郷の思い出、家族の思い出などを全て合わせて噛み締められる大切なもの。口にすることは異なれども、食に込める思いや食を介したコミュニケーションは、万国共通なのだろう。(多田)

ボランティアの声



中島 有加里さん

土曜日の親子日本語教室に参加しているボランティアの中島です。

小台橋に移転した今は少し落ち着いている様子ですが、旧真土小学校での活動時、親子日本語教室に通っている小学生は、なぜか男の子が多く、とてもにぎやかな(騒がしい?)教室でした。

そんな元気が有り余っている彼らでも、一人ひとりと少し落ち着いた状況で話をすると、学校のことや家族のことを(こちらがびっくりするほど、といっ

ては失礼ですが 笑)一生懸命に日本語で話してくれます。そして不思議なこ

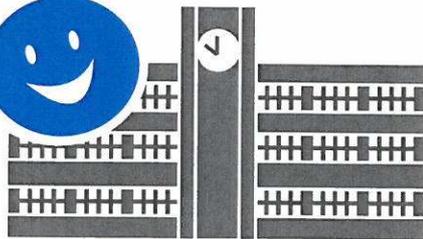
とに、自分から、日本にきたばかりの頃の様子や気持ちを語り始めるということ。こちらから聞いた訳でもないのに、学校の先生や友達の話がわからず不安に思っていたことを教えてくれます。そして最後に自信たっぷりに「今はわかるけどね!」。母語でない日本語で自分を振り返ることができるようになった彼らの成長を感じると共に、葛藤や苦勞を乗り越えた経験が確実に彼らの自信になっている様子が垣間見え、こちらまで嬉しく思います。どんな子どもも、よりよくなりたい、よりよい自分を認めてもらいたい、という思いを持っているんだということを実感する瞬間です。

私は、この3月に勤めていた会社を退職し、4月から都内の公立小学校で教員として働き始めました。ずっと踏ん切りがつかなかった私の背中を、多文化での子どもたちがぐいっと押ししてくれたと思っています。今学校教育が抱えている問題は多岐にわたるため、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育には手が回りきっていません。一介の教員に何が出来るかはわかりませんが、彼らの学びが保障される環境作りに貢献できるようになればいいなと思っています。

先日、2ヶ月ぶりに多文化の子どもたちに会いに行きました。驚いたのは、2ヶ月前はあまり日本語で会話をしていなかったW君が、日本語で冗談をいながら遊んでいたこと。あまりに自然な会話だったので、「日本語ができる子が入ってきていたんだ」と勘違いした程です。

今は日々の仕事に追われてしまい、なかなか活動に参加できていないのですが、子どもたちの成長ぶりを定期的に見に行くつもりです。

たぶんか フリースクールの 毎日



TABUNKA
FREE SCHOOL

私の国は、400 くらいの言葉がありますよ。
フランス語、リンガラ語、スワヒリ語…です。
日本の漢字はむずかしいね。(コンゴの生徒)

先生「な形容詞を言ってください。」

生徒「しずかな」

生徒「元気な」 生徒「にぎやかな」

生徒「かたかな!」「ひらがな!」

先生「えー!」……

<フリースクール(荒川校)>

4 月に旧小台橋小学校に移転し、新しい校舎での新学期が始まった荒川校です。

6 月現在で生徒数は 18 人、国籍は、中国、韓国、フィリピン、コンゴ、ミャンマー、オーストラリアです。三河島の旧校舎に比べ遠くてわかりにくいので「生徒が来るだろうか」「遅刻が多くなり授業が進められるか」など心配する声が聞かれましたが、生徒数は、昨年度より多く、活気にあふれています。

先生「今日は、早いね! 9 時 10 分です。
まだ、50 分もあります。」

生徒「多文化に早く来たかったからね!」

休み時間は、卓球や中国象棋(しょうぎ)がブームです。多言語が混じり合い、生徒たちは楽しく交流し仲良しです。♪

事務局 柙木 典子

<フリースクール新宿校>

新宿校は4LDKのマンションの一室にあり、各教室の広さは5畳から8畳。

休み時間になると生徒たちはいちばん広い8畳の教室に集まります。しかし、今は13人中、11人が男の子。平均年齢は16歳なので、もうかなり体が大きくなってきています。が、元気いっぱいのお年頃、テンションが上がればじゃれあったり腕相撲をしたり・・・障子や襖がやぶれないかとはらはらしながら見守っています。

年齢も母語もさまざまな生徒たち。特にひらがな・カタカナから勉強をはじめた初級クラスは4ヶ国の出身者が在籍しているので、共通語は習い始めたばかりの日本語だけ。それでも知っている言葉を駆使して仲良くなっていく子ども達の姿には

たくましさを感じます。

学校の雰囲気盛り上げてくれているのはポリピア出身12歳のK君。他のクラスの中国出身のお兄さん・お姉さんたちも彼に「Hola!」(オラ! スペイン語の[Hello]です)と話しかけてかわいがってっていますが、なかなか日本語でのおしゃべりは難しく、最初はコミュニケーションがほとんどジェスチャーでした。そんなK君、なんだか一生懸命に「にゃあおにゃあお」と言っているので「どうしたの?」と聞くと、「中国語のHola! でしょ」と。どうやら彼は「ニイハオ」と言っているつもりだったようです。

狭いながらも今日もにぎやかな新宿校です。

新宿校 事務局 中野 真紀子

<ハートフル>

4月から始まった3名の日本語初期指導はまもなく終了します。

指導期間は2か月間ですが、運動会や移動教室などの学校行事があった為、なかなか連続して学習することができませんでした。さらに、日本での学校生活に馴染めず、家庭の事情もあり、すでに退学が決まった生徒もいます。

生徒達は毎日の学校生活の中で日本語、学校の授業、友達、家族…様々な悩みを抱えて、苦労している様子がうかがえます。学習に限らず、出来るだけ生徒に合わせた対応を心掛けています。

そんな中、休み時間には気分転換にトランプをしています。生徒に教えてもらったゲームを私たち指導員も一緒にやっているのですが、みんなでやれると結構盛り上がりはまっています。リラックスして少しでも笑顔になればと思います。

これから補充指導が3か月間続きます。学校も夏休みになるので、校外学習など、活動を広げていきたいと思っています。

ハートフル担当 丹呉 こす恵



<多文化ユースフェスタ>

3月23日(土)に東京ボランティア市民活動センター共催、UBS特別協賛で多文化ユースフェスタを開催しました。今年は午前の部と午後の部の二部構成で、午前の部ではたぶんかフリースクールの生徒たちをおたドキュメンタリー「高校へ行きたい」を上映、午後の部は、外国にルーツを持つ子ども達が歌やダンスを披露しました。今年は、外国にルーツを持ち、東京及び東京近郊の外国人学校やNPO 団体で学ぶ子ども達約70名が参加しました。多文化共生センター東京からは、たぶんかフリースクールの卒業生が司会をつとめ、卒業生・在校生の混合チーム「たぶんか☆Friends」が出演しました。「たぶんか☆Friends」

は、本番2週間前に結成されましたが、最初はみんなばらばらでチームとしてまとまりがなく本番はどうなることかという状況でした。しかし、来日当初は自分から話かけられなかったり、マスクをけって取らなかった子ども達が懸命に練習に取り組み、当日は元気いっばいのパフォーマンスを行いました。多文化ユースフェスタの経験は、彼ら・彼女らに大きな自信につながったようです。次回は2013年9月8日(日)を予定しています。多文化ユースフェスタは、普段自分を表現する機会がなかなかない子ども達に、表現の場を提供し子ども達の存在や可能性を知ってもらえる場となっています。

事務局

<栖原暁 基金贈呈式>

長く留学生支援を続けてこられた東京大学国際センター長の故栖原暁先生の御遺志により、外国にルーツを持つ子どもたちの将来のために役立ててほしいということから「栖原暁・外国籍住民支援基金」が立ち上げられ、4月に高校1年生となった「たぶんかフリースクール」の生徒9名が入学祝金をいただくことになりました。

5月19日「高校進学を果たした外国にルーツをもつ子ども達を励ます会(於東京大学国際セン

ター・交流談話室)」で贈呈式が行われ、高校1年生になった生徒たちは、将来への夢を綴った作文をご家族や関係の皆様の前で発表しました。また、昼食をとりながら、高校生活の様子などについても楽しく歓談しました。

このような機会をつくっていただいたことに深く感謝いたします。



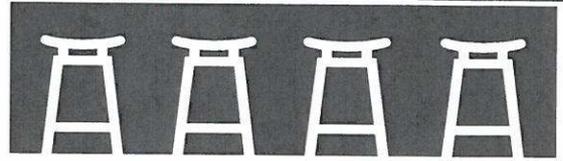
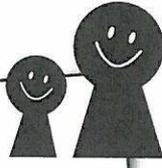
事務局

さいきん 最近の活動報告

たくさんのプロジェクト!



おやこ 親子プロジェクト



昨年さくねんの12月がつから、親子プロジェクトおやこでボランティアがくしゅうとして活動かつどうしています。そして今年ことし4月がつ、校舎こうしゃの移転いってんとともに、たくさんたかさんの出会いであいと別れわかれが訪おとずれました。参加さんかしていた期間きかんが短みじかかったとはいえ、三河島教室みかわしまきょうしつの雰囲気ふんいきをととても懐なつかしく思います。交通こうつう上の都合ごうごなどにより来こられなくなった子どもこも多く、新校舎しんこうしゃの設備せつびの良よさにかかわらず前まえと比べて少すこし寂さびしい思いがします。一方いつぱう、中学校ちゅうがっこうに進学しんがくしたあとでも毎週まいしゅう顔かおを見せてくれる子こもいて、一緒いっしょに勉強べんきょうするのをいつも楽たのしみにしています。その上まいつきあたり、ほぼ毎月く新しく来こる子がいて、ボランティアさんたちふとともにどんどん増まえています。これから時間じかんがたつにつれて、三河島教室みかわしまきょうしつに負まけないぐらい、さらいじょうにそれわき以上きに和気あいあいのにぎやかな教室きょうしつになることが期待きだいできるでしょう。

外国がいこくにルーツもつを持つ子どもたちこにとって、毎週まいしゅう土曜日どようびの午後ごごは勉強べんきょうをするために来こるだけでなく、自分じぶんの心こころを見せ合うための場ばでもあると、彼らかれを見守みまもりながらしばしば思おいました。普段ふだんクラスメイトがと家族かぞくには見せない顔かおが見みえることで、彼らかれの誰だれにも言いえない小ちいさな悩みなやみがわかるような気きがしました。たまにやる気きを失うしなったり、教室きょうしつを後あとにして逃にげ出だしたりしても、その時ときの誰だれにも理り解かいしてもらえない気持ちきもちの叫さけびが聞きこえてきました。私わたしたちには、彼らかれに知識ちしきを教おしえながら彼らかれの本ほん当とうの気き持もちを聞きくという大だい事じや役やく割わりがあるのではなおいか、と思おったりもします。今こん後も、隅田川すみだがわのさざなみと一緒いっしょに、彼らかれの成せい長ちやうを見守みまもって続つづけていたいと思おいます。(呂)

こ 子どもプロジェクト



2013年どようび2月により、土曜日どようびにボランティアで学がく習しゅうサポートおおほをしています。きっかけきかけは、私わたしが勤務きんむする会社かい社しゃで多文化共生センターたぶんかきょうせいのボランティア募集ぼしゅうを見たからでした。私わたしは元塾講師もとじゅくこうしだったので、まさまに「昔取きねづかった杵柄きねづか」もありまして、「一丁いちぢょう、やってやるか!」と応募おほほをしてしまいました。学がく習しゅうサポートでは、塾講師じゅくこうしとして経験けいけんしたことの記き憶おくを辿たどりつつ、その頃ころの懐なつかしさにも触ふれながら、子こども達たちに接せつしています。子こども達たちと勉強べんきょうをしていて感かんじることは、私わたしが過か去こに教おえた日本人にほんじんの子こども達たちと比べて「勉強べんきょうに取り組ときむ姿勢せいしが良い。」ということです。聞きけば、皆みなが目標もくひょうを持もっています。「日本にほんの大学だいがくに進学しんがくしたい。」「日本にほんでお店みせを開ひらきたい。」「日本語にほんごの通つう訳やくになって母国ぼこくと日本にほんの架かけ橋はしになりたたい。」などです。

これは根幹こんかんには日本にで生いきていくためという大おほきな目もく標ひょうがあるからでしょう。しかし、様々さまざまなメメディアディアで日本にほん人じんの子こども達たちは目もく標ひょうを持もっていない割合わりあいが高いと、この違ちがいを見聞みききますと、この違ちがいは目めを見張みるものがあります。

私わたしはこの学がく習しゅうサポートつうを通じて、子こども達たちに何なにか「きっかけ」を与あたえようと思おっています。週しゅうに一度いちどのボボランティアディアでは限かぎりがあります。でも、ほんの些細さいさいなことでもいいから、できなかつたことができるようになつたり、わからなかつたことがわかるようになつたり、そういう体たい験けんから発は展てんや進しん歩ぽにつなげてもらおうと思おっています。

あとは「土別しわかれて三日みっかなれば刮目かつもくして相待あいたいすべし。」です。子こども達たちの上達じょうたつの早はやさは驚嘆きやうたんに値あたいます。これこは私わたしも敵かないませんし、見習みならいたいことでもあります。(北見)



いいね!

facebook.com/tabunkatokyo

フリースクールのできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフがフリースクールの毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



32人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

4月11日

放課後、Sくんの漢字練習帳のチェックをしていたら読めなかったらしい単語が。

「重要」(ちなみにテキストは縦書き)

「じゃあひとつずつ読んでみようね」と、まず“要”を指すと、Sくん「にしおんな？」

バラしすぎ…。

Sくんはインド出身。非漢字語圏出身の生徒にとって漢字は日本語学習の壁なのですが、彼は半年で4年生までの640字を覚え、今は5年生の185字の復習中。びっしりと埋まった練習帳に彼の努力の跡があります。高くて厚い壁もそうやって乗り越えていけるのだと感じさせてくれる彼の漢字練習帳のチェックは、私の好きな時間のひとつです。



31人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

5月17日

日本語文法クラスでのひとコマ

学習項目「たら～、ても～」

例文「雨が降ったら遠足は中止です」「雨が降っても遠足に行きます」

それでは「たら～、ても～」をつかって文をつくってみましょう。

Tくん「結婚したら他の女の子をちらちら見ません」

「結婚しても他の女の子をちらちら見ます」

みんな大爆笑。

で、Tくん、君はどっちなのかしら？

これからも Facebook にフリースクールの日常を投稿していきます。
皆様「いいね！」をよろしくお願いします。